

# 森のひろば

フォレスト・ニュース

NO.1181

令和6年8月号

林野庁 近畿中国森林管理局



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



## スイレン：(大阪市内公園・大阪府)

トピックス：森林病虫害対策の推進の取組について（保全課）

ニュース：新局長の挨拶、福井森林管理署、鳥取森林管理署

花草木：トウワタ

我が署のスタッフ：和歌山森林管理署

森林事務所等紹介：加計森林事務所（広島森林管理署）

国有林最前線：岡山森林管理署

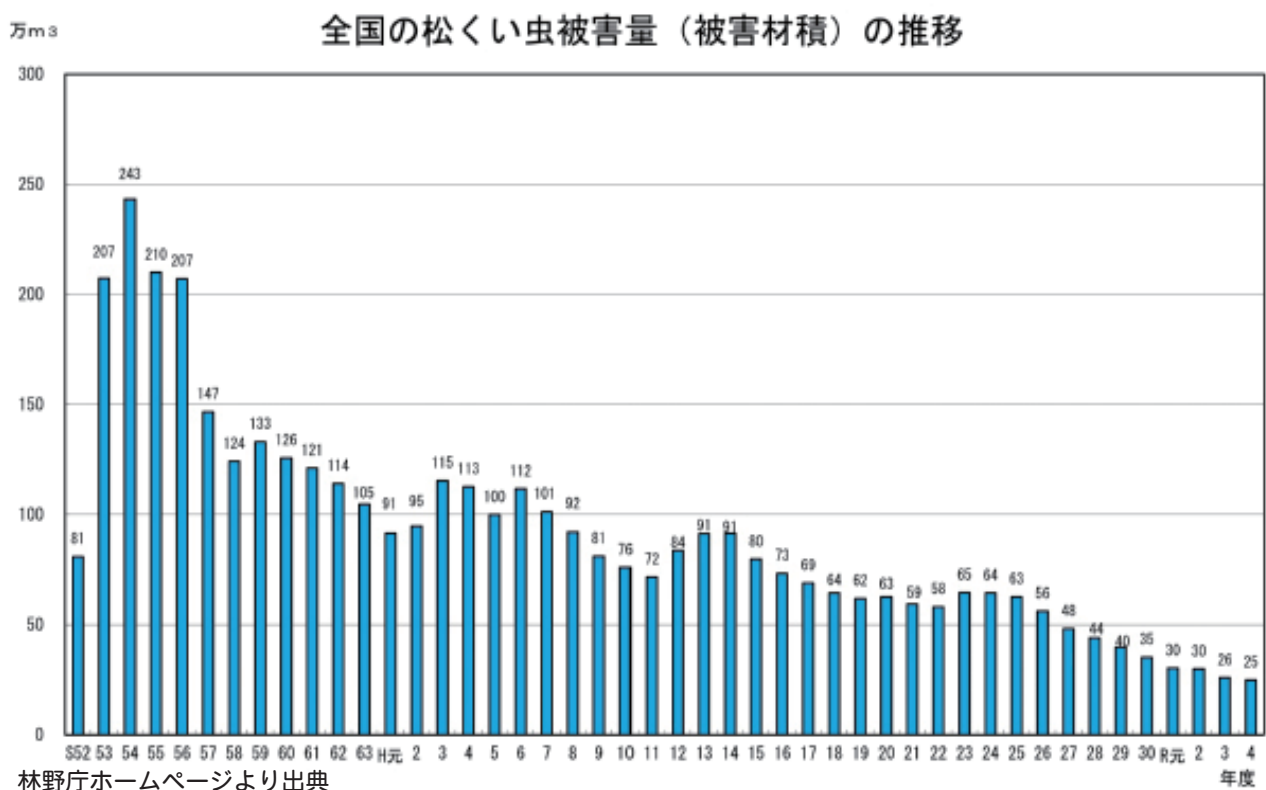
## 森林病虫害対策の推進の取組について

### 【保全課】

森林の被害には、様々なものがあります。主に、積雪や台風による倒木などの「気象被害」、火の不始末による森林火災や誤って立木を切り倒してしまうなどの「人為被害」、シカによる食害や病虫害により樹木が枯れてしまうなどの「生物被害」があります。今回は、「生物被害」のうち、松くい虫による被害と、その対策についてご紹介します。

乾いて養分が少ない土壌でも生育するマツ類は、海からの風や砂から海沿いの暮らしを守る海岸林として利用されたり、また内陸部の荒れた土地でも、いち早く森林を形成することによって土壌の流出を防ぐなど、我が国において非常に重要な役目を果たしている樹種です。

そんな大事なマツ類ですが、突然枯れて死んでしまう「松くい虫被害」が明治38年頃に長崎県で初めて確認され、その後北海道を除く各地に広がりました。被害量は昭和54年度の243万立方メートルをピークにその後は減少傾向にあり、令和4年度は25万立方メートルとピーク時の約10分の1程度の水準となっていますが、地域によっては新たな被害の発生が見られるほか、被害が軽微となった地域でも対策を怠ると再び激しい被害を受けるおそれがあることから、被害状況に応じて対策を行っています。



松くい虫被害は、体長1ミリにも満たない「マツノサイセンチュウ」という線虫が、マツ類の樹体内に侵入し増殖することで発生しますが、この線虫を媒介するのが「マツノマダラカミキリ」というカミキリムシです。大切なマツ類を守るために、カミキリムシの生態を利用した手法や、線虫の増殖を防ぐ手法で、駆除や予防を行っています。主な手法は次のとおりです。

## 1 害虫の駆除

松くい虫被害を受けたマツ類を伐倒し、①伐倒木をビニールシートで包んで薬剤によりくん蒸、②チップパーにより細かく砕きチップ化する破碎、③焼却 といった処理を行い、カミキリムシの幼虫を駆除しています。

カミキリムシは夏～秋にかけて衰弱したマツ類に産卵、幼虫は樹体内でふ化、成長し、翌年の5～7月頃に羽化して、線虫が体内に寄生したまま樹体から脱出します。この生態を利用し、駆除は、羽化するまでの間に実施します。



くん蒸処理

## 2 薬剤の散布による駆除

ヘリコプターにより空中から、または車両等により地上から、噴霧器を使って薬剤を散布し、カミキリムシの成虫を駆除することにより、松くい虫被害の拡大を防いでいます。成虫を直接駆除するだけでなく、マツ類に薬剤が染み込むため、枝の樹皮を食べた成虫の駆除も期待できます。薬剤散布による駆除は、カミキリムシが羽化し、樹体から脱出する直前の春期に、約3週間の間隔をおいて2回実施します。



薬剤の地上散布

## 3 薬剤の注入による予防

マツ類が枯れてしまう直接の原因は、線虫がマツ類の樹体内で増殖して細胞内物質を食べることにより、樹体内水分の流動が妨げられてしまうためです。この線虫の増殖を防ぐため、マツ類の樹体に穴を開けて薬剤を注入します。

線虫がマツ類の樹体に侵入するのは、カミキリムシの成虫が枝の樹皮を食べる5～7月頃で、このときに薬剤の効果が表れるよう薬剤を樹体全体に行きわたらせる12～2月頃に樹幹注入を行います。一度薬剤を注入すれば、概ね5～7年の効果が期待できます。



薬剤の樹幹注入

## 近畿中国森林管理局長着任の挨拶

### 【総務課】

7月5日付けで近畿中国森林管理局長に就任いたしました。先月たまたま元局長の方お二人と立ち話をする機会があり、局への思い入れの深さに感銘を受けたところでした。



高橋新局長

私はこれまで森林法改正、外務省で木材協定（ITTO）関係、ジェットロで木材の輸出促進、森林整備センターで民有林関係、などの林野関連業務に従事いたしました。

エリア的には中国四国農政局での勤務もありますが、近畿中国森林管理局での勤務は初めてとなります。

私も全力を尽くすつもりですので、今後とも地域の皆さまのご理解とご協力を頂けるよう努めてまいります。



局長から職員への訓示の様子

### 【近畿中国森林管理局長】

氏名：高橋 和宏（たかはし かずひろ）

出身地：山形県

最終学歴：平成3年3月 東京大学 法学部卒

（略歴）

平成3年4月 農林水産省入省（1種・法律）

平成28年9月 独立行政法人日本貿易振興機構本部農林水産・食品部長

平成31年4月 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林整備センター総括審議役

令和3年4月 中国四国農政局次長

令和4年7月 国立研究開発法人水産研究・教育機構理事

令和6年7月 現職

## 「桃木峠の大杉」周辺の保全作業をおこないました。

### 【福井森林管理署】

福井森林管理署では、7月7日（日）、<sup>きょうがたけ</sup>経ヶ岳国有林（福井県大野市）にある「桃木峠の大杉※」周辺で、桃木峠の大杉保全協議会（10名）、当署職員（3名）が参加し、歩道の刈払いなどの保全作業を行いました。

当日は梅雨の晴れ間でとても暑かったですが、「桃木峠の大杉」を見に来られる方が歩道を安全に利用できるよう、額に汗を浮かべながら刈払いや歩道周辺のロープ柵の補修を行いました。



大杉を保全するためのロープ柵補修

福井森林管理署では、今後も協議会と協力し「桃木峠の大杉」を保護・保全するための活動を行っていきます。



保全作業後の集合写真

※桃木峠の大杉は、林野庁で「森の巨人たち百選」に選定された巨木で、近畿中国森林管理局管内の国有林では、14箇所が選定され、現在12箇所「巨人」が現存しています。  
<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/kyojin/index.html>



## さいざい 採材検討会を開催しました

### 【鳥取森林管理署】

鳥取森林管理署では、7月25日（木）、<sup>かみはぎやま</sup>上萩山国有林（日南町）にて採材検討会を開催し、地域の林業関係者26名が参加しました。

「採材」とは、伐採した木を用途や市場の動向に合わせ、製材会社等が必要とする長さに採寸して切断し、丸太に加工することです。一本の木からどのような長さの丸太を何本切り出すかが収益に影響することになります。

検討会では、事業の概要、市場の現状・売れ筋の丸太等について説明を受け、その後、各班に分かれ、実際に丸太の採材検討を行いました。



概要説明の様子

参加者は長さを測りながら「できるだけ直材で取りたい」「曲がりの部分をどうしよう」「3mで取ろう」など各々の意見を出し合い、どのように採材すればよいか検討しました。

その後、各班の検討結果を発表し、木材市場の方



採材検討の様子

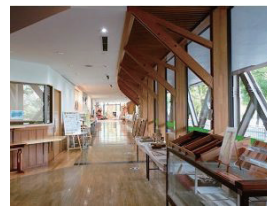
から講評を受け、採材に関する活発な議論が行われました。

採材の仕方によって木材の販売収益が変わるため、市場などから情報収集、需要の把握をすることがとても重要であることがわかりました。

鳥取森林管理署では林業の生産性向上に向け、引き続き取り組むこととしています。

## お知らせ

### 森林のギャラリー（局庁舎1階）



#### 【技術普及課】

○8月5日（月）～9月2日（月）の展示は、岡山県新見市、近畿農政局、FPIです。

○ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



#### 【技術普及課】

○「水都おおさか森林（もり）の市2024」出展者決定！詳しくは下記のホームページをご覧ください。これまでのバックナンバーもご覧いただけます。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/morinoichi/index.html>



#### 【森林技術・支援センター】

○職員フォト

職員が目にした自然の光景や行事の風景など、随時更新しています。（2024年7月13日更新）

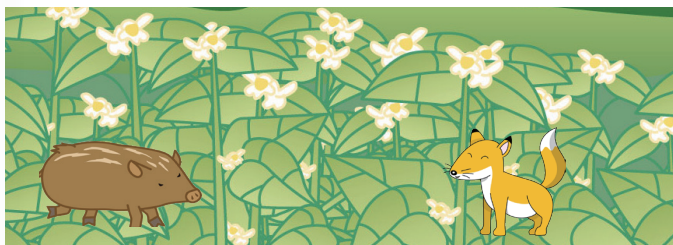
[https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/g\\_center/photo.html](https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/g_center/photo.html)



#### 【箕面森林ふれあい推進センター】

○フォトギャラリーをホームページで公開しています。

[https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo\\_fc/digcam/syashin.html](https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/digcam/syashin.html)



## 花草木

### 【トウワタ】

トウワタ（唐綿；学名：Asclepias curassavica）は、キョウチクトウ科の多年草です。原産地は南アメリカで寒さに弱いため、日本では一年草として道端や空き地に自生しています。日本には江戸時代・天保年間に渡来したとされ、和名の「トウワタ」は種子の冠毛に由来し、ツルワタとも呼ばれるようです。

花の時期は6月～10月で、茎の上部の葉の付け根から花序を出し、多数の花を咲かせます。

一つの花序には10～20個の花が付きます。

茎はあまり分枝せず直立し、草丈50～100cmに成長します。

葉茎を傷つけると白い乳液が出ます。肌が弱いとかぶれることがあるので、剪定の時などは手袋をして、肌に乳液が直接付着しないように注意する必要があります。



空き地に咲いていたトウワタの花（和歌山県）

花言葉・ 私を行かせて 心変わり

## 我が署のスタッフ 和歌山森林管理署

安田 真菜 (やすだ まな) (R2年度採用)

### 【現在取り組んでいる仕事は？】

業務グループの育成担当として造林事業の請負発注に携わっているほか、ふれあい業務やノウサギによる被害対策にも取り組んでいます。日々こなす担当業務でも、まだまだ学びが多いなと感じています。

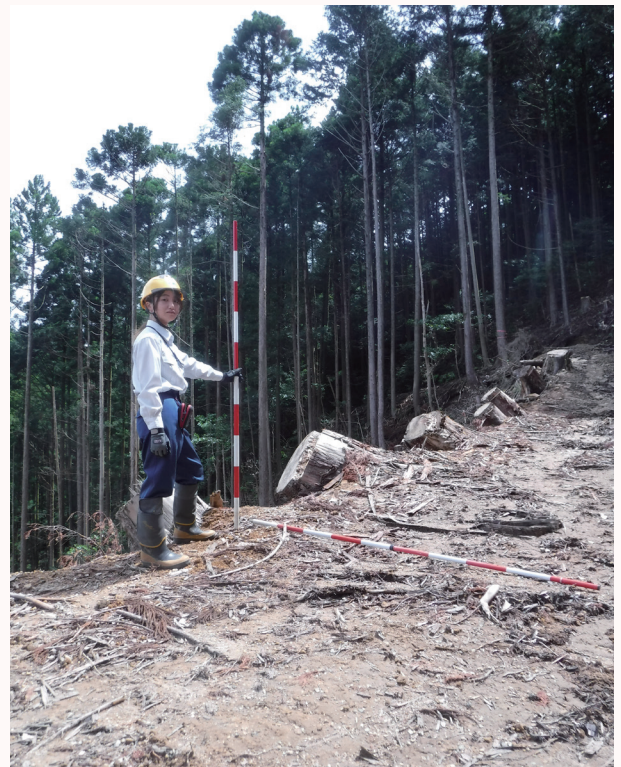
### 【職場の雰囲気は？】

日常のとりとめないことを、なんとなく話せるような和やかな雰囲気です。さらに、若手職員の挑戦したいことを、担当業務に縛られず後押ししてくれる雰囲気があるので、意欲をもって業務に取り組めます。

### 【林野庁の魅力は？】

携帯電話が圏外になるような山奥に仕事として赴くことも多いので、山や森林が好きであれば、それを公務員として体験できるのが魅力だと思います。

現場の方々には敵いませんが、日本の森林を専門的な考えや見方で捉えて、これからを考える力を持つことができると感じます。



監督業務の様子

## 森林事務所等紹介

### かけ 加計森林事務所 (広島森林管理署)

#### 森林官 中岸 大起 (なかぎし だいき)

加計森林事務所は、広島県の北西部に位置し、安芸太田町と北広島町のほか、廿日市市の一部（旧吉和村）の国有林及び官行造林地を管理しています。

県内最高峰の<sup>おそらかん</sup>恐羅漢山（標高 1,346 m）をはじめ有数の山岳地帯であり、ブナなどの原生林も多く残っていることから、管内国有林の多くは西中国山地国定公園に指定されており、山深くにはツキノワグマも生息しています。

国有林の山麓部には本格的なスキー場やキャンプ場があり、夏は登山やキャンプ、冬はスキーと季節を問わずレジャーを楽しめる環境となっています。ぜひ一度お越しください。

また、登山スポットとして人気のある<sup>じっぽうさん</sup>十方山（標高 1,328 m）の山頂にはチマキサザが一面に広がり、文字どおり瀬戸内海から日本海まで 360 度の大パノラマを一望することができます。

私は、森林官として森林と人とが共存できる環境を守るため、日々業務に励んでいます。



<sup>なかのこう</sup>  
中ノ甲国有林 (ブナ原生林)



十方山 (山頂付近の全景) ※<sup>たていわ</sup>立岩山から撮影



<sup>よこごう</sup>  
横川国有林 (スキー場)



横川国有林 (スキー場)

# シリーズ『国有林 最前線！』

## ～素材の販売単価向上に向けた取組～

岡山森林管理署

岡山森林管理署では、令和6年度、25,230m<sup>3</sup>の素材生産・販売を予定しています。素材（丸太）の販売に当たっては、最新の市況動向をもとに、適切な採材を行うことによって、販売単価を向上させ、林産物収入の確保を図ることが求められています。

そこで当署では、令和5年度から、素材生産事業箇所において、素材生産事業者、木材市場、森林管理署の三者による採材の勉強会を実施しています。令和5年度は、計6回の勉強会を開催し、延べ84人（うち素材生産事業者から33名）が参加しました。



事前学習



木材市場からの説明

令和6年度においても、すでに3回の勉強会を実施しており、6月10日（月）には、さんこうやま三光山国有林（岡山県新見市）で勉強会を開催し、素材生産事業者から9名、木材市場か

ら2名、署から8名が参加しました。

現地での勉強会に先立ち、署の職員は、スギ、ヒノキ等の主な用途や性質、径級別の木取りや長級別の用途等、採材に関する基礎知識について事前学習を行いました。

現地での勉強会では、木材市場関係者から最新の市況動向の説明を受けた後、スギ試供木2本、ヒノキ試



ヒノキ試供木の採材検討



意見交換中

供木3本について、素材生産事業者が販売単価の向上を狙った採材の検討を行い、検討結果を発表しました。発表内容について木材市場関係者からアドバイスを受けた後、プロセッサによる採材を実

演していただきました。また、競り売りを行う木材市場向けの素材とチップ工場等へ直送するシステム販売材の仕分け方法についても素材生産事業者と打合せを行いました。

続いて行った木材市場関係者を交えた意見交換では、ヒノキの場合、径級が15cm～18cmの直材ならば3m、径級が18cm以上ならば4mで採材すれば販売単価が高くなることや曲がり材の許容範囲などを確認しました。

岡山森林管理署では、引き続き、三者による情報共有を緊密に行いつつ、素材の販売単価向上に向けた取組に努めることとしています。